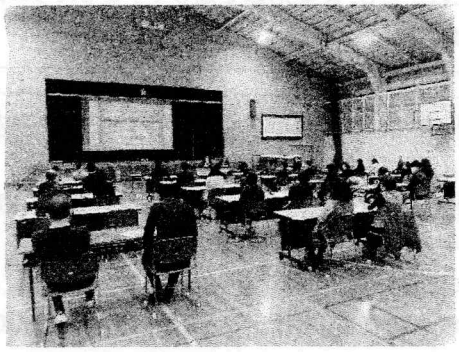
青葉中学校区青少年健全育成推進会だより

あおば

No.85
令和4年12月23日発行
青葉中学校区青少年健全育成推進会事務局
札幌市立青葉中学校 011-891-4351

「義務教育９年間を見通した児童・生徒支援のあり方」 青葉中学校　生徒指導部　鈴木　克明



１１月９日、本校体育館にて小中合同の生徒指導研修会が開催されました。小学校においては次週が学習発表会というタイトなスケジュールの中、小中合わせ 38 名の出席率の高い会となりました。改めて感謝申し上げます。今回の研修会は、小中教職員の真剣な参加姿勢のもと、２本の大きな柱を中心に行われました。

１本目の柱は札幌市教育委員会教育相談担当課指導主事2名による講義でした。スライドによる説明は ①不登校の現状②不登校に係る教育相談 ③「小中一貫した教育」に向けた不登校に係る視点についてで、現場での具体的話題が盛り込まれていたため、たいへん興味深く、説得力のある内容でした。また、質疑応答の中で、不登校児童生徒に対するオンライン授業のあり方について丁寧に助言をいただき、「今までのモヤモヤがかなり解消された」という感想を複数聞くことができました。

2本目の柱は中学校における不登校、不適応生徒の現状に関しての情報交流でした。中学校側から各学年の詳細な資料を提示・説明することで、特に小学校の教職員の方に現状を伝えることができました。それぞれのケース一つ一つに今後の方向性も明示していることで、支援の方策や組織、システム等について小中お互いが理解を広めることができたと思います。

今回の研修会では、時間の制限があったため、情報交流に関しては中学校から小学校へという一方向になってしまいました。また、少人数によるグループ討議もできなかったため、次の機会には是非実現させたいという思いが強く残ったのも事実です。

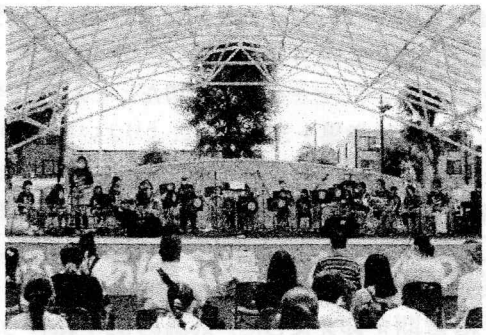
私たちは義務教育9年間が子どもたちにとって分断することなく、滑らかにつながりを持ったものになるよう支援していかなければなりません。そのためには小中の教職員がともに手を携えながら、様々な交流、研修を深め、子どもたちの心の安定を目指していく必要があります。今回の合同研修会はその意味でもたいへん意義深いものになりました。

「地域とつながり、成長する子ども」　共栄小学校　保健主事　角屋　雄亮

本校では、様々な少年団活動が行われています。その中に、「共栄小学校スクールバンド」という金管バンドがあります。開校 10 周年頃にクラブ活動の一部として発足し、その後、社会情勢の変化に伴い、活動の場を少年団活動へと移していきました。発足当時から、運動会のファンファーレ演奏、全校集会での入退場演奏、学習発表会での演奏披露と、校内で音楽の楽しさ、素晴らしさを広める一助を担っておりました。その他、各種コンクールへの出場、地域のお祭りへの参加、定期演奏会など、活動の場は多岐に渡っています。

ここ数年は新型コロナウイルス感染症の広まりもあり、活動が縮小していましたが、今年は2年ぶりに「新さっぽろ夏祭り」「新さっぽろ秋の文化祭」に出演し、地域の文化交流にも貢献することができました。また、年明け2月には地域の商業施設での演奏会も予定されており、活動の場を広げています。

運営は保護者会を中心に行われており、児童への直接の指導は共栄小学校の教諭が行っています。活動の主眼は、演奏の技術を上げることだけではなく、音楽活動を通して子どもたちが成長することに置いています。コンクールや演奏会に出演するその過程で、自分自身が努力する大切さを感じること、試行錯誤しながら練習計画を立てたり演奏を作り上げていったりする中で仲間と協調すること、自分たちの活動を支えてくれる方々への感謝の気持ちをもつこと、そういった、今後社会に出たときに必要となる経験を大切にしています。（裏面へ続く）



新さっぽろ夏祭りでの演奏の様子

（共栄小学校 表面続き）

様々な演奏の機会を与えて頂けることで、子どもたちは成長します。そして、子どもたちが一生懸命に頑張る姿を通して、聴いてくださる人の心を震えさせる事ができると考えています。お客さんに、「良かったよ！」と言って頂けることで、さらに子どもたちは奮起し、成長していきます。

これからも、音楽活動を通して子どもたちの成長を見守るとともに、学校・地域とのつながりを深めながら活動していければと思います。

「小中一貫した教育の推進～体育専科教諭の授業を通して～」

新札幌わかば小学校　教頭 道佛 智志

令和4年度から札幌市では「小中一貫した教育」が全面実施されています。新札幌わかば小学校は、青葉中学校とパートナー校として、教員の研修を対面で行うなど、様々な活動を行っています。その中で、今年度から、「中学校教諭による高学年体育の専科指導」が始まりました。これは、今年度から始まった札幌市の先駆的かつ試験的な取組で、現在本校を含む3校を対象として行っている事業です。本校では、青葉中学校に在籍している柴田貴世教諭が、5・6年生の体育科の授業を行っています。

【子どもの声】
- 専門的な授業が受けられるので楽しい。
- 知っている先生が中学校にいると思うと、中学校への進学に安心感がある。

【高学年担任の声】
- 空き時間ができて、事務作業等ができる時間的な余裕が生まれた。
- 専科指導教諭から、担任では気付きにくい子どものよさを伝えられ、子どもの新たな一面に気付くことができた。

【体育専科教諭の声】
- 小学校５・６年生と授業ができて楽しい。
- 中学校教諭として、小学校の子どもの様子が分かることが、進学に向けての安心材料の一つである。
- 中学校の体育の授業では体操着を着用しているが、小学校では、服装が自由。体育のある日は運動できる服装で登校することになっているが当初は、忘れる子も少なくなく、指導が難しかった。

【小中一貫した教育の視点から】
- 小学校と中学校との連携・協働において、体育専科教諭が架け橋となっている。
- 小学校と中学校の互いの強みや課題が分かり、学び合いが生まれている。
- 体育の授業を通して、授業の在り方を学ぶきっかけとなっている。

上記のように本事業は、子どもたちにとっても、小・中学校にとっても多くの成果が表れています。一方で、今年度からの事業ですので、学習環境を整えるなど、課題は残っています。

ご存じのように、新札幌わかば小学校と青葉中学校は、令和9年度を目途に札幌市で4校目の義務教育学校となる予定です。義務教育学校の誕生に向けては、9年間を見通して、子どもたちの学びや学校生活の在り方をつなぐことが何より大切だと考えます。今後も、青葉中学校教諭による専科指導をきっかけに、よりよい授業の在り方、子ども理解の在り方、学校づくりの在り方について教職員で知恵を出し合い、小中一貫した教育をさらに進めていきたと考えています。

【体育専科教諭による「陸上」の授業】

事務局より

積雪期を迎えました。気温の低下に伴う路面凍結や路肩の雪山からの飛び出し、薄暮時間帯の道路の横断など、登下校時・または外出時の行動に関して、改めて注意が必要となる季節です。ご家庭でも注意喚起と指導をお願いいたします。